

I am compelled to pay attention to this fact it was also in this period when Japan joined the modern capitalism of the western world, in the name of national project and stepped in to the course of domi-

nance. To sum up, I take the greatest interest in taking the "sight" as a grammatical method of the modern ages.

卒業論文要旨

高齢者夫婦世帯の配偶者介護による生活行動の変化

—札幌市中央区を事例として—

穴 口 朋 子

高齢者夫婦世帯において配偶者が要介護状態になった場合には、たとえ本人が健康であつても生活が大きく変化すると思われる。一般に人は住み慣れた家で家族に囲まれて死にたいという願いが強いが、まだ高齢者福祉行政は夫婦のみでの在宅介護が可能なほどカバーされておらず、その願いが実現されるのは大変困難である。本稿では、都市化の進んだ地域として札幌市中央区をフィールドに選定し、公的福祉サービスおよび医療機関を利用するという、高齢者夫婦世帯の具体的な行動に着目・注目し、配偶者が在宅、あるいは医療機関で介護活動に入ることによって、その生活行動・行動範囲がどう変化するのかを聞き取りを通じて明らかにし、在宅介護を推進する上での課題を考察した。

配偶者の健康が損なわれることによって生まれた生活行動変化として、在宅では介護の性質上の制約として配偶者の様子を見て外出、あるいは交代を頼める人がいるときには外出するなどの時間的な制約が顕著である。また心理的な制約として配偶者への遠慮から自分の外出も控える人もいる。日常的に行動を共にしていた夫婦では、介護活動の必要がなくても配偶者のいる病院へ足を運ぶ傾向がある。物理的制約でも心理的な制約でも、介護活動が優先され、その他の生活必需活動や余暇活動を規定していた。また結婚年齢の差や平均寿命の差などから、夫婦間における介護は、男性の世話を女性がする可能性が高いが、入院している夫に手料理を届けるた

めに買い物の時間帯・回数が増えた女性の例も複数あり、男女差が見られた。日常的に夫が妻の外出を嫌がっていたため在宅介護時にますます外出しなくなった女性や、逆に日頃自由にさせてもらっているからこういうときにこそ側にいなくてはと、必要がなくても病院で付きっきりになる女性もいる。また入院している場合、配偶者の意識があれば夕食時に一緒にしようとする。これらは女性に見られた心理的制約である。結果として女性の場合、病院滞在時間が病院の食事時間と面会時間、特に面会終了時刻に制約される傾向にあり、場合によっては患者と一緒に食事がとれるのが望ましい。男性の場合、夫婦世帯だと介護活動と共に新たに家事の負担がかかり、制約のなかった余暇活動に大きな変化をもたらす。ホームヘルパーの確保や在宅福祉サービスの時間的融通を可能にさせる必要がある。

高齢者にとって移動の負担は大きい。しかし医療機関を決定する場合、地理的条件は最優先されない。その収入を公的な年金に頼る高齢者世帯にとっては交通費の支出負担も大きい。介護活動に携わっている高齢者が利用している医療機関と配偶者が利用している医療機関が異なっている例が多く、負担を大きくしている。主治医が、自宅近くの、入院施設のない診療所であるためであるが、配偶者の入院している病院でも同じ治療が続けられるような、医療機関の連携も必要ではないかと考える。